

大河ドラマが観光に与える影響についての考察

—「天地人」と米沢市の事例—

岡部 光

NHK のテレビドラマシリーズである大河ドラマは、放送開始から 50 年以上経った今でも歴史ドラマとして人気が高い。大河ドラマの放送により、ドラマに登場する歴史上の人物やドラマの舞台が注目され、それらに関心をもった視聴者が、ドラマの舞台となった場所を訪れ、結果的にそれが地域の観光に影響を与える。

大河ドラマが観光に与える影響についての研究は、地域の活性化につながる観光の在り方を模索することや、地域の観光資源を見出すこと、あるいは見直すことにつながると考えられ、その点において価値があるといえる。そこで本研究では、大河ドラマ「天地人」と山形県の米沢市を事例として、このドラマが観光に与えた影響について、米沢市の取り組みとその成果、経済波及効果、観光入込客数に着目して考察する。

米沢市では「米沢「天地人」推進プロジェクト」の特別プロジェクト事業として、「天地人博 2009」を開催した。最終入場者数は 51 万 5,775 人となり、大成功であった。また、「天地人」による経済波及効果は約 71 億 4 千万円と推計され、大河ドラマによる経済効果の規模の大きさを物語っている。観光入込客数においては、「天地人」が放送された年は、それ以前に比べ大幅に増えた。

しかし、大河ドラマの放送が終了すると、それによる観光入込客数の減少率が、その後の東日本大震災の発生による観光入込客数の減少率よりも大きくなっており、一般的に考えられている、大河ドラマによる（経済）効果が一過性であることが明確に示されるかたちとなった。その一方で、「天地人」による米沢市観光振興事業の一環として作成された観光ガイドなどは現在も継続しており、必ずしも大河ドラマによる（経済）効果が一時的なものであるとは限らないといえる。また、米沢市直江兼続マスコットキャラクター「かねたん」については、その関連商品が現在も生産・販売されていて、「天地人」の産物として今も活かされている。